

# 台風時期における試行の進め方について

平成28年6月23日(木)  
多治見市タイムライン事務局

# 試行の進め方（案）

多治見市タイムライン(平成27年度版)の各主体における行動項目毎の実施手順や実施するために必要となる事項を確認・検証することを目的として、多治見市タイムライン(平成27年度版)を試行する。

## <進め方の概要>

- 対象：多治見市タイムライン(平成27年度版)、対応シート
- 実施時期：7月下旬～10月下旬
- 実施場所：各主体の持ち場で実施。
- 実施者：各主体
- 試行内容：
  - ①タイムラインレベル1のトリガー情報・条件が発表された時点で各主体は多治見市タイムライン(平成27年度版)の試行を開始。
  - ②各主体は、対応シートを参考にしつつ、各行動項目を実践。
  - ③各主体間での情報共有(各主体が実践した行動項目の共有など)
  - ④各主体が実践した行動項目を記録

# 試行内容（情報共有）の具体（案）

ミーリングリストを活用した各主体間での情報共有を実践し、各主体間での情報共有上の課題を把握する。

## ＜情報共有の具体＞

- 共有者:各主体
- 共有内容:各主体が実践した行動項目
- 共有時期:各主体が行動項目を実践し、完了した時※  
※可能な範囲でタイムラインレベル2までをリアルタイムとする。  
状況が逼迫した場合は事後報告でも可。
- 共有方法:
  - ①事前にミーリングリストを作成する。
    - ・各主体で複数の登録が可能
    - ・ミーリングリストは事務局が管理
    - ・ミーリングリストで共有される内容は、各主体間のみで共有される(原則非公開)
  - ②ミーリングリストで各主体が実践した行動項目を共有する。  
例)〇〇時〇〇分／事務局／タイムライン運用開始(タイムラインレベル1) など。

↑  
いつ

↑  
だれが

↑  
なにを

# 試行内容（記録）の具体（案）

各主体が実践した行動項目を記録し、多治見市タイムライン(平成27年度版)の運用上の課題を把握する。

## ＜記録の具体＞

- 記録者:各主体
- 記録内容:各主体が実践した行動項目及び対応シート
- 記録方法:
  - ①記録紙を使用し、実践した行動項目及び対応シートを記録する。  
※可能な範囲でリアルタイムに記録する。状況が逼迫した場合は事後整理でも可。
  - ②記録・整理後に、各主体で行動項目及び対応シートの運用上の課題を整理する。

タイムライン様式による対応チェックリスト(検討用暫定版 転用・転載厳禁)

回答機関(自動入力)		庄内川河川事務所									
時間(いつ)		行動(何を)		タイ	今回の対応状況				今回の対応に係る調査事項		
時刻	現象	気象情報・予警報	NO	項目	細目(具体)	実施○ 実施せず× 実施したが時期違い△	対応開始日時01 (情報受信日時)	対応開始日時02 (情報発信日時)	対応に要した時間(分)	課題や状況など	
							月 日 時 分	月 日 時 分			
平常時			1	状況・情報の把握	河川巡視(通常維持管理)	○					
			2	状況・情報の把握	水文(雨量・河川水位)観測	○					
-120H	台風発生	台風情報	3	気象・防災情報の発表・伝達・収集	台風情報および気象情報の発表・伝達・収集・確認	○					
-72H	台風による日本への影響の可能性	全国気象情報	4	気象・防災情報の発表・伝達・収集	台風情報および気象情報の発表・伝達・収集・確認	○					
			5	体制の準備・事前確認	連絡体制の確認	○					
			6	施設の点検・点検	排水ポンプの動作確認	○					
			7		設備資機材の準備	○					
			8	防災資機材の確認・準備	応急復旧用の備蓄資材等事前確認	○					
			9		防災車両等の点検・点検	○					

対応記録様式のイメージ(名古屋市の事例)

# タイムライン運用調整会議について

- ・タイムライン運用開始後(タイムラインレベル1のトリガー情報・条件が発表された時点)、タイムライン運用調整会議を開催している事例がある。
- ・災害対応が逼迫してくるまでの間、タイムラインレベル移行の判断を行ったり、各主体の行動項目の実施状況を共有したりするなど、効率的な運用を行う上での一手法である。

## <タイムライン運用調整会議のイメージ>

